

吉賀

心肺機能蘇生法（CPR）や自動体外式除細動器（AED）について学ぶ、吉賀町内の中学校対象の救急救命講習が9日、同町六日市の益田広域消防署六日市分遣所で始まった。同町蔵木の蔵木中学校の生徒と教職員が、胸骨圧迫や人工呼吸の実に取り組む、認定証を手にした。同町教育委員会が受講料を補助し、医師や看護師、救急救命士でつくるNPO法人・六日市ECC協会と六日市病院（吉賀町六日市）が、2013年から町内の4中学校を対象に毎年実施している。今年7月、最後に到達度テストに臨み、全員が2年間有効

もしものとき助けたい

AEDや人工呼吸 蔵木中生ら講習

6日までに7回実施する。認定証を手にした。同校3年の中嶋華那さん（14）は「身近で人が倒れた時は経験を生かして救助に当たる」と話した。（吉野仁士）



六日市ECC協会のインストラクター（左）の指導で、胸骨圧迫の訓練に取り組む蔵木中学校の生徒